

歯科用カメラを贈呈

開創三十周年で鶴見大学歯学部へ三十一台

ことし開創三十周年を迎えた善光寺（黒田武志住職）は、記念事業の一環として、檀家総代の（株）アジアロイドジャパン社長・細井勉氏から提供された歯科・口腔外科用のポラロイド「インパルス―Dカメラ」三十一台を鶴見大学歯学部に贈呈し、その「拝受式」が四月二日午前十一時から、横浜市鶴見区の同大学で執り行なわれた。

善光寺はタイやアメリカでの修行体験をもつ黒田住職が昭和四十四年、日野公園墓地入り口

の現在地に開創。以来、「宗祖を通して釈尊に還る」を宗教的頂点として寺檀一体の教化活動を展開し、開創十五年目の昭和五十七年には報恩行として「横浜善光寺留学僧育英会」を設立。これまでに世界十八カ国・延べ九十三人の留学僧を日本に受け入れ、またタイや欧米に派遣してきた。

三十周年の記念事業を計画していたところ、檀家総代の細井社長から輸入事業で取り扱っているポラロイドカメラを寄贈したいとの申し出

鶴見大学へ歯科用カメラを贈呈。左から柳澤慧二歯学部長、高崎直道学長、黒田方丈、細井勉檀家総代



があり、その活用方法を話し合う中で、曹洞宗大本山總持寺を設立母体とする鶴見大学の歯学部へ、専用機種のカメラを贈呈することに決めた。

このポラロイドカメラは「インパルス—D」という型で、接写機能を限定強化した歯科・口腔外科用のカメラ。計量コンパクトで持ち運びが便利なため、歯列矯正や口腔外科に必要な高品質の接写写真を簡単な操作で撮影できる。従来のようにレントゲン室に移動しなくても、患者と対面したまま、その場で素早く写真処理ができ、等倍、二倍の撮影も可能というすぐれた機能をもっている。

一台が高価なため簡単に導入できるものではなく、寄贈の話を受けた大学側は当初、半信半疑だったという。善光寺が三十周年というだけでなく、細井総代が社長をつとめるアジアロイドジャパンも創立三十年という因縁が重なり、

横浜で唯一の歯学部である鶴見大学歯学部も昭和四十五年の開設から来年が三十年というめぐり合わせ。

三十一台もの大量寄贈に大学当局と歯学部は「今の時代に奇特なことで本当に有り難い。新年度の素晴らしいスタートができた」と大喜び。カメラは善光寺とアジアロイドジャパンの両者の



学長、歯学部長連名での感謝状

の名前で贈呈され、「拝受式」の後、高崎直道学長と柳澤慧二歯学部長の連盟で黒田・細井両氏に感謝状が贈られた。

